

リーディングスキルテスト (RST) について

リーディングスキルテストとは

- 国立情報学研究所 社会共有知研究センターが開発した基礎的読解力を測るテストである。
- 「日本語のルールに従って教科書の文章を読むことができない生徒がいるのではないか」という仮説のもと、教科書などの基本的な文章はもちろん、図やグラフなどからも情報を読み取ることができるかを科学的に診断、測定する。

リーディングスキルテストにおける6つの読解力

係り受け解析

「誰が(何が)」「何を」「どうした」という文の基本的な構造を正しく読み解く力

照応解決

「それ」や「これ」などの指示詞を使わずに省略が何を指しているかを正しく読み解く力

同義文判定

二つの文が同じ内容を表しているかを判定する力

推論

問題文からどのようなことが言えるのか、言えないのか、論理を用いて正しく判定する力

イメージ同定

文章から正しいイメージをつかむ力

具体例同定

定義を読んで、その言葉の正しい使い方を身につけることができる力

問題と結果の例

【問題例】

仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている。
オセアニアに広がっているのは()である。
A ヒンドゥー教 B キリスト教
C イスラム教 D 仏教

	公立中6校の解答分布	公立進学高の解答分布
A	0%	0%
B	57%	82%
C	14%	0%
D	29%	18%
誤答率	43%	18%

(出典)2016年2月実施の国立情報学研究所 社会共有知研究センター調査より

「中高生の成績の推移」(問題タイプ別正答率(カッコ外)及びランダム解答の生徒の割合(カッコ内))

	(1) 係り受け	(2) 照応認識	(3) 同義文判定	(4) 推論	(5) イメージ	(6) 具体例
中1	56.4 (44.6)	55.4 (46.5)	67.3 (58.1)	50.6 (68.4)	26.4 (57.7)	23.6 (62.1)
中2	58.4 (40.5)	55.9 (42.6)	71.8 (52.5)	54.0 (58.9)	28.6 (45.4)	25.4 (56.6)
中3	64.5 (29.3)	66.8 (24.4)	74.7 (41.8)	57.9 (49.9)	36.3 (34.5)	33.7 (41.4)
高1	82.0 (6.7)	82.1 (5.8)	87.5 (17.0)	67.9 (32.9)	51.1 (16.8)	49.1 (19.3)
高2	86.4 (3.5)	81.3 (10.4)	88.7 (12.5)	69.7 (29.5)	57.7 (10.4)	50.0 (8.5)
高3	87.5 (3.0)	86.9 (2.2)	90.5 (8.5)	74.9 (19.1)	53.2 (4.4)	51.3 (14.3)

- 生徒は「係り受け」「照応」「同義文」を得意とし、「推論」「照応」「具体例」を苦手とする傾向がある。
- 得意傾向の分野は「文の表層的な情報を読み取る能力」であり、苦手傾向の分野は「文の意味を理解できる能力」であり、特に、文の意味理解にかかる指導の必要が認められる。

結果の活用

結果の分析→効果的な指導方法等の明確化→指導事例集の作成・配布→学校訪問による直接的指導・支援の充実→各学校における指導体制、指導方法の改善

- 例：効果的な指導方法：「受験者向け5段階評価×7タイプ」に基づく指導の工夫 ※「照応解決」
- しっかり身につけている生徒：主語や目的語が省略されている問題解決のスキルをさらに高める学習を設定
 - 比較的身につけている生徒：複雑で長い文章を何度か読み返して意味を理解する学習を設定
 - 複雑な文になると読み取れない生徒：最後まで読み通し、指示詞が指す言葉に下線を引く学習を設定
 - 指示詞が何を指しているのかを把握するのが苦手な生徒：音読の習慣化、「それ」が何を指しているかを声に出す学習を設定
 - やさしい文を読むのにつまずいている生徒：音読を周りの人に聴いてもう学習、視写をする学習を設定